まだまだある ふるさと自慢

川部望実さん
（12歳・邑久町福山）

『人形劇』は、大勢の皆さんのふるさと自慢の一つ。その背景には、人形劇の祭典『喜之助フェスティバル』があります。豊かな情操を培い、竹田喜之助（本名・岡本隆郎）の偉大な功績を後世に伝えようと始まり、この夏のフェスは17回目。

喜之助は、数多く人形を制作し、国内外で公演。高い評価を受けた人形師。交通事故で56歳で帰らぬ人となりました。己に厳しく、自分を売り出すことを嫌った喜之助は死後も多くの弟子に慕われ、フェス開催時には国内から多くの人形劇団が集まります。

地元人形劇団も次々に誕生。現在は7劇団が活動中。市内での公演回数も次第に増え、大勢の皆さんが観劇。子どもだけでなく大人の心の栄養剤にもなっています。

森下弘子さん
（61歳・牛窓町牛窓）

牛窓秋祭り当日奉納される唐子踊や太刀踊は、県指定重要無形民俗文化財で、エーゲ海フェスティバルでも披露される伝統芸能です。

異国風の鮮やかな色彩の衣裳を付けた2人の男児が囃子方に合わせ踊る唐子踊は、衣裳も歌も踊りの動作もほとんど他に類をみない独特のもの。牛窓に寄港した朝鮮通信使の影響がここにも見られます。10月に東京で開かれた日韓国交正常化40周年記念の祭りで、保存会が披露しました。

牛窓だんじり8基は、県指定重要有形民俗文化財です。主に、けやき材を主とする船型だんじりで、屋形はち密巧妙で、船大工の職人技が随所にあふれています。秋祭りの日には、これらのだんじりがまちを巡行し、にぎわいます。

太田正明さん
（68歳・長船町牛文）

緑川洋一は、邑久郡裳掛村（現在の瀬戸内市邑久町）虫明で生まれました。中学校卒業後、上京し、日本大学歯科医学校に入学。在学中から写真を始め、卒業後も岡山市で歯科医をする傍ら写真を撮り続けました。多重露光などを用い、輝く海などを色彩豊かに表現することから「色彩の魔術師」と呼ばれました。

緑川洋一著の『緑川洋一旅日記』（NCフォトブックス発行）に、「瀬戸内海は、私の幼少年期をはぐくんでくれた母なる海である。私の写真はこの瀬戸内海からスタートした」とあります。瀬戸内海の美しさに魅せられ、たくさんの風景を写真に収めました。

日本を代表する写真家の石津良介、植田正治らとともに活躍し、後進の育成に力を注ぎました。

万波優斗君
（8歳・邑久町虫明）

虫明焼は、江戸時代中期に岡山藩主池田家の筆頭家老伊木家6代目忠興がお庭窯として、虫明で焼かせた京焼系の釉薬を施した陶器です。

年代は不明ですが海上交通の要だったこの地にもたらされた朝鮮系の焼き物が起源だと考えられています。

幕末のころには、大茶人でもあった14代の伊木忠澄（三猿斎）が京都から名工を呼び寄せ作らせた薄手で優美な虫明焼は、一躍有名になりました。

明治に入ると森香洲の優れた技法で伝統は引き継がれ、その技法は弟子へと受け継がれました。

虫明焼は、岡山県の伝統的工芸品の一つで、現在では、虫明焼作陶会の皆さんが伝統を受け継ぎ作陶活動に励んでいます。

木村修一さん
（83歳・長船町西須恵）

瀬戸内市と備前市にまたがる邑久古窯石群は須恵器の産地です。この中でも長船では一番古い窯が見つかり、須恵という地名も残っています。「土師」「須恵」という地名からも、窯跡からは多くの須恵器が発掘され、この地が高度な技術をもつ土器づくり職人の住むまちだったことが分かります。

桂山付近一体は、大小無数の古墳と須恵器窯跡が散在し、一大古墳郡を形成しています。中でも築山古墳は前方後円墳としては規模が大きく、古墳時代中期のものと考えられています。吉備地方豪族の動向を知る貴重な古墳です。

西須恵の皆さんが、「須恵器の里」づくりで遺跡の散歩道を整備。

5月3日には、須恵古代館のそばで地元の皆さんが須恵古代まつりを開いています。

市政バスで市のことを知ろう

市では、市の施設などの見学を行い、市政に対する理解や認識を深めてもらい、市政参加意識の高揚を図ろうと市政バスを実施しています。

10月25日、第3回市政バスを実施。牛窓のしおまち唐琴通りや長船の福岡の町並みを歩きながら歴史に触れようというもので、30人が参加。

「瀬戸内市は歴史深いということが分かった。また参加したい」と、参加者の皆さんは意欲的でした。

しおまち唐琴通りで説明を聴く参加者の皆さん

次回の案内は、本紙1月号でお知らせします。皆さん、ご参加ください。

取材を終えて

牛窓町・邑久町・長船町の3つの町が合併して瀬戸内市が誕生し、1年が過ぎました。

市内には、誇れるものがたくさんあります。あちらこちらで話を伺い、驚きと感動の連続でした。古くからどれほどこの地域が住みやすい地域であったか、現在も高く評価を受けているものがいかに多いか、知れば知るほど魅力を増す瀬戸内市。

これからも、ふるさと自慢が増え続けたらいいなと思いました。

皆さんも、市内を歩いてみませんか？まちを知ることで、今まで以上にこのまちを好きになることでしょう。

本誌でも、いろいろな分野のことを取り上げて紹介していきたいと思います。